

1. 調査報告概要表

作成日 2008年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2172700714
法人名	有限会社 ケーワイウェーブ
事業所名	グループホーム 花咲
所在地 (電話番号)	〒509-4125 高山市国府町糠塚21番地 (電話) 0577-72-5933
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市正木町坂丸2丁目95番地
訪問調査日	平成 20年 2月 8日

【情報提供票より】(20年2月13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.0 人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り	
	2 階建ての	1 階 部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 ・ 15,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	円
	または1日当たり		650 円	

(4)利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	垣内医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、高山市の中心からやや離れた幹線道路を少し山間に入った四季折々の移ろいが味わえる自然環境の中にある。周辺には一般住宅が点在しており、地域住民と関わりも良く、取れたての野菜などを持って、毎日のように訪問がある。また、多方面のボランティアの受け入れもある。ホーム内はトイレ、風呂等全てに床暖房設備があり、真冬時も快適な空間となっている。利用者は床座で個々の筆箱を用い読み書き等の学習会や体操で心身をほぐしたりして、スタッフとともに家庭的な環境の中、毎日を楽しみ充実した日々を過ごしている。又4～10月の外出日和には15人乗りの車で温泉や観光を楽しんでいる。若い経営者夫妻、そして若い職員が利用者と家族同様に接し、元気を与えている。一方、昼夜間の医療体制は、協力医の理解があり、医療機関との連携が良く取れており、利用者が健康で、笑い声が絶えないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘された6つの改善項目は、職員全員で話し合い、改善計画シートを作成し、19年度中に全ての目標に取り組み、達成されている。特に、こちらに移転して間もないが、地域住民との交流に関して、地域住民の参加できる行事の計画やボランティアを受け入れたり、地域の諸行事に施設から参加するなど積極的な取り組みをしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長や管理者は、職員全員のミーティングで、今回の外部評価の変った点など説明し、日々実践していることを、自己評価として積み上げている。自己評価で気づいた改善点についても話し合い、直ぐやれるものは行い、これからの施設運営に反映させている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、基準で決められた2ヶ月に1回のペースで、家族の代表や地域住民の代表、高山市の担当者、地域包括支援センターそして、施設長、管理者塔が参加して、毎回、有意義な会議になっている。会議では活発な意見が出され、会議録を作成するとともに、施設運営に反映させている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用開始時に家族の意見、不満、苦情等言える場面の説明を分かり易く説明をしている。また、運営推進会議や面会時にも、家族が意見を出しやすい雰囲気作りをしている。また、面会が少ない家族には、申出書を作成し、文章で意見等を提出してもらう等工夫がある。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>この地域に移設して間もないが、地域住民との交流がかなり進んでいる。利用者が散歩や喫茶店に出かけるときには、必ずあいさつを交わすようにしている。施設は、地域住民に、いつでも訪問できるよう施設を開放しており、また、地域住民も取れたての野菜等を日常的に持ってきてくれる。更にボランティアの受け入れも積極的に行っており、音楽や裁縫、地域の昔話や伝説の語り部など多彩である。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、利用希望者や家族が、一度訪問したくなるような明るい、家族生活を前面に表現したものになっており、ホームのたよりも、毎回理念を掲載している。	○	今回、サービス制度が導入されたことに伴い、利用者がお互いに寄り添い、助け合い楽しいときも悲しいときも気持ちを分かち合える家族にしようとしている現在の理念に、地域住民とも手を繋ぎ合わせるような交流を促す文言の加筆の検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフは、ホームの理念に沿って日々の支援を行なっている。特徴的なものは、「外に出かけよう」の理念で、人は幾つになっても行きたい所(山や川、海、ショッピング、食べたいもの、着飾りたいこと等)がある。それをかなえてあげたい。と明示されているが、自前でバスを購入し、利用者が希望するいろいろな場所(温泉や観光地)に、頻繁に出かけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	この土地に移設して間もないが、地域住民との関係が良好で親しみをもたれている。施設も開放的で、利用者が散歩等に出かけるときは、必ず、あいさつを交わすようにしており、地域住民の取れたての野菜等の差し入れが日常的に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者は、自己評価や外部評価の目的や意義を、ミーティングで説明している。前回の評価結果で指摘された改善項目を職員全員で話し合い、改善計画シート作成したうえで改善に向けた取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、基準で定められた2ヶ月に1回のペースで開催している。テーマは、施設の概要や施設の理解をしてもらうことに力点を置いている。そのため、まだ意見交換をする段階には至っていない。	○	今後は、自己評価の説明・報告やそこで気づいた点など、参加メンバーからも意見を出してもらい、施設運営に反映されることを期待したい。外部評価についても、評価結果を同様の取扱にして、運営会議のメンバーの意見や提言を求めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長や管理者は、毎月行なわれる連絡協議会に参加しており、また、施設運営に関しても市の担当者から助言を求めるなど、連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームのたよりを配布して、施設の近況や利用者の元気な様子など伝えている。又、面会時に担当者が本人の生活や健康状態など話している。面会が少ない家族には、金銭出納簿の報告時に合わせて、本人の状況等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や不満、苦情等については、運営推進委員会や面会時に家族から言い易い雰囲気を作っている。入所時にも苦情担当者や意見箱の設置など分かり易く説明をしている。また、意見を言われたい家族のために申出書を作り、家族の意見や苦情を書いてもらうよう働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長や管理者は、職員がこころ代わることが、利用者にとって混乱等を招くなどダメージを与えることを承知している。職員が若い人達なので、働きやすい環境作りに力を注いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者に対して、どのようなサービスや支援が良いかについては、ミーティングで対応についての勉強会をしている。また、年間研修計画はないものの、外部研修では、研修者には研修報告を書かせるとともに、情報を共有すべく、ミーティングで発表させている。	○	施設のサービスの質を更に向上させるには、職員全員のレベルアップが不可欠であり、特定の人を研修会に参加させるのではなく、職員が均等かつ必要な研修を受講できるように、研修計画を作成されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高山市内の同業者については、連絡協議会を通して、事業者との交流をしている。また、市外の事業者とも、開設時から運営についてや、サービスの質の向上について、交流しており、施設運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの利用開始はせず、体験入所することを基本にしている。利用希望者について、1ヶ月以上、毎日施設で体験させて、職員や利用者とも馴染みになってもらっていることがある。また、利用してまだ慣れない利用者には、友人が毎日、訪れてみんなと遊んだりして、本人がホームシックにならないで済んだこともある。このようにいつでも本人本位に家族等と相談して馴染む工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食堂とは別の居間は、利用者全員と職員が寝そべって、体を動かせるような広いスペースがあり、床暖房で自分の好きな場所の確保ができる。座卓が用意してあり、座って書き取りや算数の計算、絵や書、パッチワークなど、職員とともに学んでいる。また、ボランティアが来て、地元の方言を使って、伝説や昔話等にもみんな一緒に聞き、楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要介護度1～3と比較的、軽度の利用者ばかりなので、本人からどう暮らしたいか、日々どう過ごしたいかを会話の中で聞き出し、本人の経験や趣味、特技等を活かせるよう、本人の意向に沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを軸に、本人の希望や家族の意見、要望を聞き、更に主治医の意見を踏まえた上で、職員全員と話しながら、利用者本人に合わせたベストな介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは、運営規程に則って行なっている。利用者の体調や状態のが急変したときは、主治医及び家族と相談のうえ、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験入所や通所にてホームの生活を体験された方もある。地域にはホームを理解してもらえ様、開放に努めている。また、バスを購入し、利用者が行きたい所を聞き、希望の多いところへ、日常的に出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	垣内医院に協力医療機関として、緊急時対応をしている。昼夜を問わず相談出来る医療体制を整えている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調の急変が重度化につながる可能性もあると考え、利用時には説明をしている。見取りに関する指針については取り組みを始めたばかりであるが、連携している医療機関の医師とは受け入れ等の話し合いもされている。	○	体調の急変が重度化になる可能性も考え、家族との連携を密にしたマニュアル作りを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護日誌の中で、ゆったりと声をかけたり、優しい声かけの記録がある。個人情報の書類も徹底管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	学習療法や物作り等、利用者が率先して行い、喜びを感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片づけをしている利用者が4、5人いた。昼食も「おいしい」の会話があり、皆、完食であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	車椅子利用可の入浴室のスペースがあり、裏山の景色も見られる窓もあり、楽しんで入浴される風景がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の筆箱があって学習の時間や床での体操、夏季には、外気を浴びながらの花づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出日和には15人乗りの車で近辺の温泉や、観光地に足を伸ばしている。地元の保育園との交流の写真もあった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊のある利用者はないので、夜間以外はまったく鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救急講習も受講しているが、実際のホームでの訓練は実行していない。	○	玄関先は広いが取り付け道路が坂道である。その点を配慮しながら、消防署の協力を得て親密な近所の方と共に、避難訓練を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取の記録も的確であり、良質な水が飲める器具がおりてあり、適宜に飲水出来る様にしてある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等すべてのホームの床には、床暖房が程良く施れ、柔らかい照明の下で皆がフロアに集い、談話されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ、親んだ家具や、家族、孫、曾孫達の写真があった。窓から四季の移り変わりがわかり、野鳥の鳴き声を聞くことも出来、居心地の良さが感じられる。		